

入選

努力と感謝

千葉県 専修大学松戸中学校

三年 大川 遥

私たち3年生は、今夏、引退前最後のテニス部の団体試合に臨みました。私たちは、県の上位が常連の中学ではなく、決して強いとは言えません。今までの大会では、練習時間や練習環境を考えると、他校との練習量の違いを感じるが多々ありました。

そして昨年から、コロナの影響でさらに練習時間に制限がかかりました。また、次々と目標となる大会が失われていきました。私たちは、少しずつ部員それぞれのテニスへの情熱に、格差が生まれているのを感じました。また、実力が発揮できる場がないと、投げやりな気持ちにもなりました。

私たちは、環境だけではなく、コロナも理由にテニスから少し距離を置いていきました。確かに、日々伝えられるコロナの感染状況は広がっていて、もっと強くなりたい、でも練習できない、今回も大会は中止になるだろうと、さまざまな葛藤が私の中でもくすぶっていました。

そのような状況の中で、七月に大会の開催が決定しました。開催が決まったことで、顧問の先生が、時間や活動に制限がある中、一生懸命私たちのために指導してくれました。私たちは、大会出場のチャンスが来たことに嬉しくなり、また少しずつ前向きにテニスに取り組むように変わっていきました。

泣いても笑っても最後の大会、後悔のないようにやり切ろうとみんなで誓い合ったのです。コロナの影響で、練習に制限を受けたのは、どこの学校も同じです。結果よりも目の前のことに集中して、全力を出し切ろうと決めました。

そんな私たちを、家族や学校の先生が応援してくれました。また、同時期の開催となったオリンピックの選手の努力や活躍、日々目の前の患者さんの命のために働く医療従事者の方々や、コロナと共存しがんばる飲食店など、さまざまなニュースを見ました。環境やコロナを理由に、諦めかけていた仲間とのテニスを、がんばろうと思えるようになったのは、コロナと戦う人たちのおかげでもありました。

私たちは大会初日、仲間と声をかけ合いながら協力して、一戦一戦に挑みました。順調に勝ち進み、最後は笑顔で県3位の銅メダルをもらうことができました。今までにない成績を収めることができたのは、このような状況を受け入れ、取り組んだからかもしれません。

最後に、私は大会までを振り返って、全力で練習に励んだことで、改めて努力の大切さを知りました。今までテニスができることがあたりまえだと思っていたので、目の前のコロナと向き合い、必死になって努力した今年は、以前とは違い多くの感動と達成感がありました。

そして、大会開催まで準備してくれた関係者の方々や顧問の先生、家族が私たちのために支えてくれた気持ちも感じ、感謝したいと思いました。

夢が失われた中、憎んだこともあったコロナでしたが、「努力」そして「感謝」という大切なことを私たちは今夏、教わったような気がします。